

# 明治日本の産業革命遺産

～「産業国家」日本の原点 鹿児島～



旧集成館反射炉跡



反射炉のCG復元図



関吉の疎水溝



寺山炭窯跡



## 第2回

### 日本を強く豊かな国に （集成館事業第一期）



1851年に薩摩藩主となった島津斉彬は、日本を強く豊かな国にするためには、軍備の強化だけでなく、人々の暮らしを豊かにする必要があると考え、鹿児島市磯の地に「集成館」と名づけた日本初の工場群を築きました。

ここでは、鉄製の大砲の製造のため、反射炉の建設に取り組みました。西洋の書物だけを頼りに、薩摩の技術を生かして、多くの蘭学者や技術者の力を集め、試行錯誤しながら完成させました。

成功に至るまで幾度も失敗を繰り返して、落胆する藩士達を、斉彬は「西欧人も人なり、薩摩人も人なり（西欧人ができたなら、薩摩人も必ずできる）」という言葉で鼓舞しました。

集成館の動力水車に水を供給したのが鹿児島市下田町の「関吉の疎水溝」であり、集成館の燃料となる火力の強い白炭を製造したのが同市吉野町の「寺山炭窯」です。



尚古集成館 蔵

第11代薩摩藩主島津斉彬像  
(1809年～1858年)

集成館事業は、製鉄や造船、紡績、ガス灯、印刷、輸出入の薩摩焼、薩摩切子の開発など多方面に及びました。最盛期には1200人も人が働いていましたが、斉彬の急逝によって事業は一時縮小されました。

世界文化遺産の構成資産である「旧集成館反射炉跡」、「関吉の疎水溝」、「寺山炭窯跡」は、その歴史を今日に伝えています。

関連情報

### VRアプリで当時の 集成館事業をみてみよう!

無料アプリ「ストリートミュージアム」をダウンロードし、薩摩の近代化(集成館第1期・第2期)からご覧ください。

ダウンロードはこちらから



### インフルエンサーと一緒に 楽しく学べる動画配信中!

「明治日本の産業革命遺産inかごしま」Vol.1

動画はこちらから

